



ころがせ大玉 そりゃー（斗賀野小学校大運動会）

さかわ *Sakawa* **議会だより**

52
2012.11.1

発行 高知県佐川町議会

9月定例会

contents **目次**



わらぐろ 秋深まる加茂の里（弘岡）

23年度 各会計決算を認定 **2**

しんしゃく
「斟酌」どう捉えているか（一般質問） **12**

橋の耐震化進んでいるか（一般質問） **14**

情報伝達網の整備必要（あの質問のゆくえ） **18**

23年度決算

総額2億8,377万円の黒字決算

一般会計・特別会計決算を認定

町の借入金 年々減少、貯金は増加

決算総額は、歳入（収入）が前年度より約2億1962万円少ない11億8億4140万円。歳出（支出）が前年度より1億6285万円少ない1億15億697万円。歳入・歳出とも減となった。

一般会計

町の主な事業を行う一般会計は、歳入で前年度より3億2039万円少ない64億9278万円。歳出では2億6548万円少ない62億7230万円となった。

歳出では、経常的経費が1億5937万円の増。これは総合行政システム（電算システム）の更新経費の増によるもの。

病院事業

病院会計は、単年度では4629万円（前年度7690万円）の黒字決算となっている。前年度に引き続き黒字となっているが、給与費等費用の増加により、3061万円昨年より利益が減少している。累積欠損金は6億6101万円となった。

水道事業

水道会計は、本年度純利益は1682万円（前年度比795万円増）これは、29年ぶりの料金改定による給水益の増収によるもの。長年、供給単価が給水単価を上回っていたが今年度より正常な状況になっている。



町の借入金

町債（借入金）の状況は、一般会計では5億2743万円借入れ、10億3405万円（元金と利息）を償還（返済）し、23年度末の未償還元金は53億2480万円となっている。特別会計を含む町全体の未償還元金は78億5500万円となっている。

町の貯金

基金（貯金）の状況は23年度中の積立額が2億7743万円、取崩額は1億6061万円で、23年度末現在高は41億4137万円となり、22年度より1億1682万円の増となっている。

23年度各会計の決算状況

総額115億697万円を認定

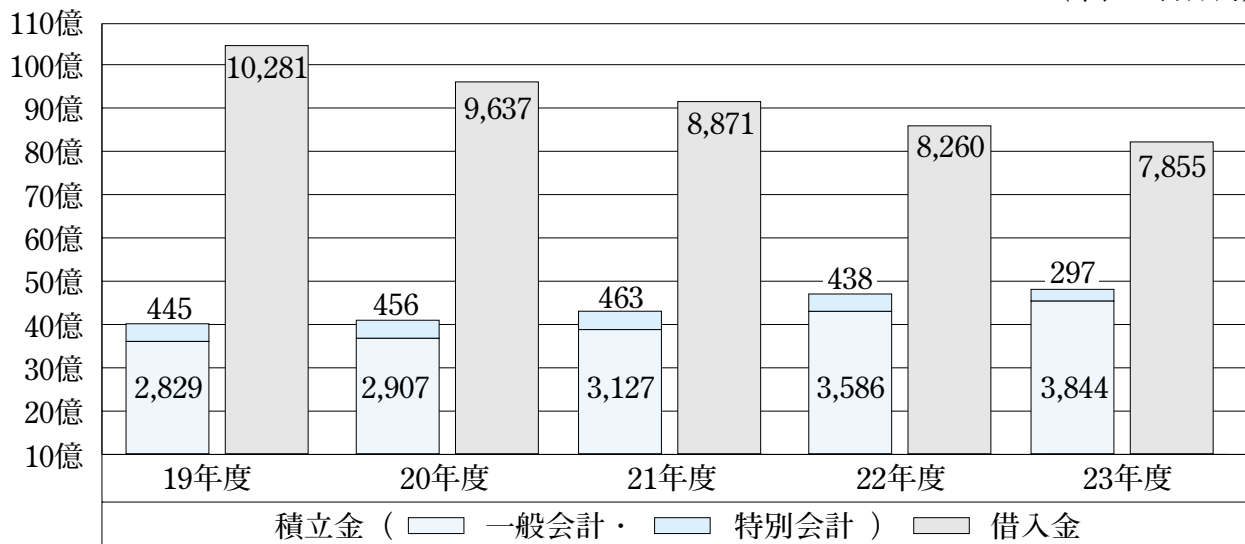
(単位:万円)

会 計 名		決 算 額				採決結果
		歳 入	歳 出	翌年度繰越額	実質収支額	
一 般 会 計		64億9,278	62億7,230	5,065	1億6,983	反 対 2
特 別 会 計	国民健康保険	17億5,336	17億3,932	0	1,404	賛 成 全 員
	住宅新築資金等貸付事業	4,049	673	0	3,376	
	学校給食	5,314	5,314	0	0	
	農業集落排水事業	2,422	2,422	0	0	
	特定環境保全公共下水道事業	605	605	0	0	
	介護保険	15億7,848	15億7,739	0	109	反 対 1
	後期高齢者医療	1億 9,188	1億8,994	0	194	
	水道事業	1億5,318	1億 3,636	0	1,682	
	病院事業	15億4,782	15億0,153	0	4,629	
総 合 計		118億4,140	115億0,697	5,065	2億8,377	

※水道・病院事業特別会計は収益的収支を記載

積立金・借入金の推移

(単位：百万円)



※借入金は、特別会計・一般会計の合計金額を記載

町民1人当りの
貯金は30万円 借入金は56万円

どう生かされたみんなのお金

歳出総額 115億697万円

市町村の財政状況を表す①財政力指数 ②経常収支比率 ③実質公債費比率で見ると

①財政力指数 0・30

一般的な行政の仕事を、行うのに必要な費用を、どれだけ自前で賄っているかを示すもの。1以上なら、一般的に「財政力豊か」とされます。

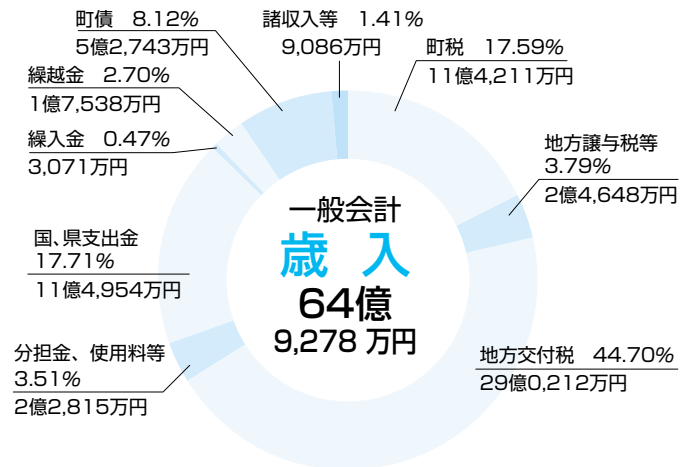
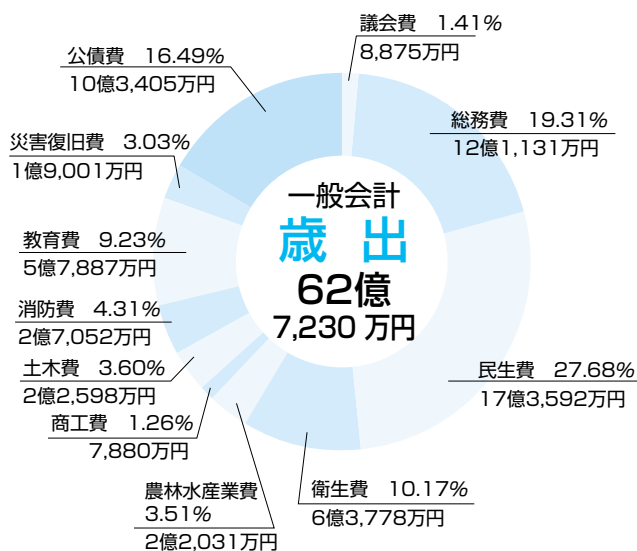
②経常収支比率 89・4

人件費などの経常経費が、使い道が限定されない一般財源にどれくらい比率で占めるかによって財政の弾力性を示すもの。75%以下が適正とされています。

③実質公債費比率 14・9

自治体の収入に対する負債返済の割合を示すもの。3年間の平均値を使用し、18%以上だと、新たな借入金をするためには、国や県の許可が必要となる。

以上から判断すると佐川町の財政状況は、昨年に引き続き、厳しい財政運営を強いられているといえます。



監査意見(要旨)

監査委員
西 山 毅
松 浦 隆 起

平成23年度決算は、前年度と比較して歳入で3億2,039万円、歳出で2億6,548万円と大幅に減少している。

歳入では、国の経済対策としての交付金事業等の減が大幅に減少した要因だ。

歳出では、消防防災施設整備基金の創設で増加している。一方で、総務費、衛生費、商工費は、大幅に減少している。

主な要因は、佐川中学校建設基金廃止の余剰金と土地開発公社解散による清算金などの財政調整基金への積立金の減、飲料水供給施設整備事業の翌年度への変更、歴史まちづくり整備事業の全体計画の見直しによる事業費の減などである。

また、未収金は一般会

計、特別会計を含めて2億2,755万円で前年度より4,951万円減少している。租税債権管理機構での徴収、滞納整理課の徴収実績が上がっており、滞納の防止と回収に法的処置をとりながら、さらなる努力を期待する。今後とも税収等において大幅な増収の伸びは期待できない。従前以上に困難な財政運営を強いられることが予想され、引き続き財政健全化に努め、町民の福祉向上にさらに努力されたい。



法令 順守すべきだ

松浦議員 決算の認定を議会に付するに当たっては、その会計年度の主要な施策の成果を説明する書類を付けることが、地方自治法に定められている。しかし、今回の認定には、付けられていない。法令を順守し、提出すべきだ。

岡林総務課長 「主要な施策の成果を説明する書類」は、従来から提出されていなかったが、これは、提出しなければならぬ義務規定になっている。大変に申し訳ないことだと思っており、来年度以降は提出するようにしたい。

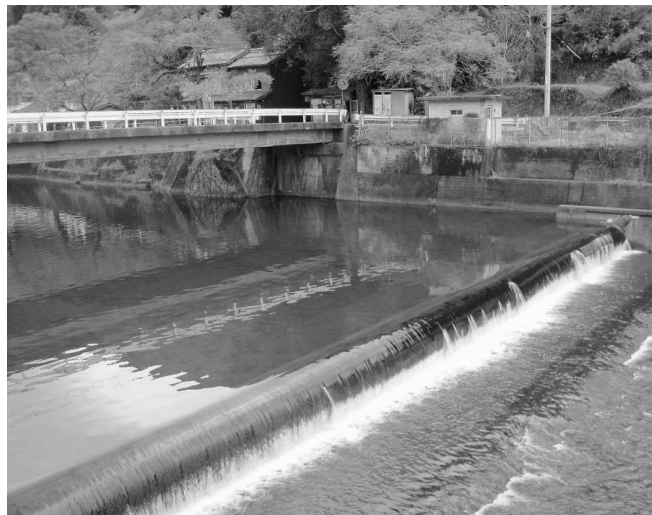
ファブリダム、 作り直すべきでない

中村議員 ファブリダムの設計委託料があるが、将来へ向けて、ファブリダムは作り直すのはいかなるものかと思っている。

自然に優しく、経費も安く済む方法を研究するべきだ。

渡辺産業建設課長 町内には9カ所のファブリダムがある。同じものを作り直すには多額の費用がかかる。

23年度 決算質疑



設置後30年以上経過し、計画的な対策が求められる

かかるため、順次、調査委託をし、受益面積が10ヘクタール以上のものは長寿命化の事業、10ヘクタール未満は別の事業を計画的に導入していきたい。

基金は安全な 方法で運用を

森議員 本町の基金は4億4千万円強あるが、安全な方法で運用しなければならない。金融機関の経営内容を吟味して運用しているのか。

また、運用の利率はどれくらいか。

西森会計管理者 一部5年のものもあるが、ほとんどは1年で運用している。金融機関については、自己資本比率が6%を切ると危険とされているが、現在のところは、どの金融機関も10%以上を超えており、安全だと思っている。利率は、0.4ないし0.38だ。

農業集落排水事業 現在の状況は

松本議員 農業集落排水事業は、各戸に使用料を払っていただいて運用するというものだ。当初から、赤字にはなっても黒字にはならないだろうと指摘していた。現在の状況はどうか。

渡辺産業建設課長 この事業は、農村地域の環境、自然環境、河川環境、生活環境改善の目的を持って実施されている。

加入率は、23年度現在、83.8%で、使用料は100%完納を続けてお



高齢者にとって介護職員は心の支え

り、目的は順次達成していることは間違いない事実であり、一定の成果は上がっていると確信している。

介護現場 待遇に問題ないか

森議員 病院事業の利益の大半をデイケア・デイサービスセンターが占めている。しかし、介護の現場からは、労働条件について、不満の声が出ている。利益を重視するあ

まり、待遇に問題があるのではないか。

笹岡病院事務局長 現場からさまざまな声は聞いている。今後、他の介護現場の状況などもよく調査をする中で、現場の声を反映できるような対策を講じていくよう検討したい。

23年度 注目

議会が

した事業

9月定例会において、認定した23年度各会計決算の中から、注目する事業を紹介します。



書館整備



1,639万円

書籍検索システムの導入や駐車場、空調の整備を行いました。

黒岩小耐震補強工事

3,837万円

黒岩小学校の耐震補強と大規模改造工事を行いました。

旧佐川中学校 グラウンド整備



1億1,610万円

社会体育施設として整備するため、駐車場やトイレ、倉庫棟の整備や防球ネットの設置を行いました。



空調設備整備



316万円

町内4カ所の小学校の図書室にエアコンを設置しました。

通学路防犯灯設置工事



158万円

通学路の中で、夜間に暗くて危険な場所に、防犯灯を設置しました。

玉割小橋橋脚工事



6,266万円

玉割小橋の橋脚工事やそれに伴う埋設支障物件移設を行いました。

保育促進事業



3,772万円

延長保育など、保育に係る経費への補助を行いました。

9月定例会で決まりました

9月定例会は、9月7日から14日までの会期で開かれました。

平成23年度決算の認定のほか、24年度補正予算をはじめ、条例改正など議案8件、報告5件、同意案3件、意見書2件を審議し、採決の結果、賛成全員および賛成多数で全件可決しました。

一般質問には6人の議員が登壇し、町政全般について、活発な論戦を展開しました。

平成24年度9月補正予算

(単位：万円)

会計名		補正額	補正後の額
一般会計		4,447	62億4,710
特別会計	国民健康保険	846	17億2,198
	住宅新築資金等貸付事業	3,376	3,850
	介護保険	228	15億9,456
	後期高齢者医療	194	2億1,073

報告案件

財政健全化判断

比率等の報告

地方公共団体の財政の健全化に関する法律（財政健全化法）に基づき報告されたもので、一般会計等の実質赤字比率、連結実質赤字比率は黒字のため、数値がなく、実質公債費比率14・9%、将来負担比率も数値がなく、早期健全化基準を下回っている。

また、水道事業、病院事業、農業集落排水事業、特定環境保全公共下水道事業特別会計の資金不足比率は、いずれも資金不足はなく健全であると報告を受けた。

条例改正

防災会議委員を

自主防災組織から

任命

災害対策基本法が改正され、地域の防災に関する重要事項を審議することになり、その委員として、自主防災組織からも任命するように改正された。

(9月18日施行)
(賛成全員)

工事請負契約締結

佐川町西山地区飲料水

供給施設整備事業

(契約の方法)

指名競争入札

(契約金額)

4935万円

(契約の相手)

有限会社

四国水道設備興業

(賛成全員)

人 事

教育委員

川井 正一 氏

南国市岡豊町常通寺島

77番地1

(賛成全員)

横畠 亨 氏

佐川町黒原4722番地

(賛成全員)

固定資産

評価審査委員

山本 静男 氏

佐川町乙1876番地5

(賛成全員)

工事請負契約締結

佐川町立尾川小中学校耐

震補強・大規模改造工事

(契約の方法)

指名競争入札

(契約金額)

1億7714万円

(契約の相手)

晃立・大原特定建設

工事共同企業体

(賛成全員)

平成24年

第1回臨時会

7月23日開会

新規就農

研修支援事業

1200万円

新規就農者の確保・育成を目的に、一定の要件を満たすことによって、自立して就農する就農希望者に青年就農給付金を支給するもの。

広井博士生誕

150年記念事業

105万円

工学博士で「港湾博士」と言われ、世界的学者の広井勇博士の生誕150年を記念したテレビ番組「土佐のむかし話」制作を委託するもの。

牧野公園

リニューアル事業

247万円

牧野公園に、牧野博士ゆかりの植物を植栽し、観光施設として高質化、ブランド化を図るもの。

歴史

まちづくり事業

510万円

現在、佐川小学校にある名教館玄関を、上町に移築復元するための実施設計を委託するもの。



数々の偉人を育てた名教館

意見書

国にももの申す

総理大臣をはじめ、
関係機関に意見書を提出

地球温暖化対策に 関する「地方財源 を確保・充実する 仕組み」の構築を 求める意見書

地球温暖化防止をより
確実のものとするために
は、森林の整備・保全等
の森林吸収源対策や豊富
な自然環境が生み出す再
生可能エネルギーの活用
などの取り組みを、山村
地域の市町村が主体的・
総合的に実施することが
不可欠である。

よって、二酸化炭素吸
収源として最も重要な機
能を有する森林の整備・
保全等を推進する市町村
の役割を踏まえ、「地球
温暖化対策のための税」
の一定割合を、森林面積
に応じて譲与する「地方
財源を確保・充実する仕
組み」を早急に構築する
ことを強く求める。

(賛成全員)
(要旨)

鳥獣被害 防止対策の充実を 求める意見書

近年、野生生物による
農作物の被害は、深刻な
状態にあり、その被害は
経済的損失にとどまら
ず、農家の生産意欲を著
しく減退させ、ひいては
農村地域社会の崩壊を招
きかねないなど、大きな
影響を及ぼしている。

よって、国におかれて
は、鳥獣被害防止対策の
充実を図るため、地方自

治体が行う鳥獣被害防止
施策に対する財政支援を
充実すること。専門的な
知識や経験に立脚した人
材の養成を図るととも
に、地域の取り組みに対
する技術指導などを含め
た人的支援を強化するこ
と。有害鳥獣の正確な生
息数および生息域の把握
ができる調査方法を確立
し、国を挙げて総合的な
被害対策に取り組むこと
を強く要望する。

(賛成12・反対1)
(要旨)



ストップいのしし 電気牧柵

策定の検討どうなった

総務課長 策定の方向で作業進める

松浦 隆起 議員



6人が町政を問う

ここが聞きたい

昨年の12月定例会において、「業務継続計画策定は、地域防災計画を見直す段階で検討する」との答弁であったが、どうなっているか。

また、災害時に町外在住職員が、参集できないことを想定した体制を考えておくべきだ。

岡林総務課長 業務継続計画が、応急復旧業務の実効性を高めるとの認識に立ち、来年度に地域防災計画を見直す時点で、業務継続計画を策定する方向で作業を進めたい。

町外在住職員の対応についても、業務継続計画の中で考えていきたい。



消火器の扱い 聞くより、見るよりまず体験

介護支援ボランティア制度

導入すべきだ

健康福祉課長 介護保険運営協議会で検討

介護予防の促進と介護保険の給付費の抑制、高齢者の方の負担軽減を目的とした、「介護支援ボランティア制度」を、導入するべきだ。

下川健康福祉課長 制度の導入には、多くの検討課題がある。各関係機関の意見を踏まえ、介護保険運営協議会等で、検討を進めたい。

うつ病の早期発見の取り組みの一つとして、自治体において、導入され始めているのが、心の健康状態やストレス度をパソコンや携帯電話で気軽に診断できる「こころの体温計」というものだ。

本町においても、うつ病の防止対策として、導入するべきだ。

下川健康福祉課長 「こころの体温計」をホームページにアップすることで、町内の心の健康に悩む住民への働きかけや実態把握、関係機関への相談窓口につながる取り組みとして、十分効果を上げる可能性があると考える。具体的な検討を行い、実驗的な実施から試行したい。

健康福祉課長 実験的な実施から試行する

「こころの体温計」導入するべきだ

うつ病対策



百歳体操 心も元気に



森 正彦 議員

ナウマングラウンドの利用が少ない。利用見通し、利用計画のないまま施設を作ったのではない。具体的な利用調査はできていたのか。スポーツ振興計画を立て、活動をより活性化させ、

社会体育

ナウマングラウンド活用図れ

教育長 周知し、利用拡大に努める



体育振興に生かしたい ナウマングラウンド

せ、併せてナウマングラウンドの活用を図るべきだ。
川井教育長 利用調査はしていない。体育会等の意見も聞き、住民が自由に使えるグラウンドが必要との考えで整備した。
将来的にどのような体育振興、スポーツ活動の振興を目指すのか、皆さんの意見を聞きながら、計画を立てるべきかどうかも含めて検討する。
グラウンドは、整備終了後、周知して利用拡大に努めたい。

集落活動センター

十分準備して設立すべきだ

産業建設課長 総意を図る努力したい

集落活動センターの事業導入計画があるようだが、内容と進捗度合いは。地域の人がこのセンターを本当に欲しがっているのか、また、目的や核になる人材など、行政主導ではなく、設立に向けて自主的な話し合いを行い、十分準備して設立すべきだ。
渡辺産業建設課長 県との協議で、来年度、尾川地区で集落活動センター事業に取り組みたい。
この地区には尾川地区活性化協議会があり、住民参加の前提条件が整っている。
今後は、県の指導もいただき、活性化協議会と町が内容の一体化について、住民への説明、情報の提供を繰り返し、総意を図るために努力したい。

上町整備

観光誘致に役立っていない

町長 まだ効果上がっていない

酒蔵ロード劇場は良い祭りであるが、今後について資金、マンパワー、企画について課題があるのではない。
また、上町で整備してきた施設が、観光誘致に役立っているとは思えない。利用計画が具体的にされていないが、今後についてどうするか。

渡辺産業建設課長 資金に関しては、今のところ話はない。マンパワーについては、来年度、観光協会（仮称）の発足を予定しているので、補助業務を担って支援する方策もある。企画については、タイムリーなものを検討し、くろがねの会で決定したものを含め、みんなで支援したい。
榎並谷町長 上町の整備は、まだ効果が上がっていないし、活用方法もまだ示していない。観光協会を設立して、活性化していきたい。





今橋 寿子 議員

歴史的まちづくり整備事業

客車の設置、必要か

町長 復元を希望している

上町の歴史的風致地区整備の進捗状況は。

また、ＪＲから借り受ける予定の客車については、町の予算の少ない中で、設置する必要があるのかとの声がある。必要な事業として計画しているのか。

渡辺産業建設課長 進捗状況は、現在までに佐川文庫庫舎の移築、小公園の整備、牧野公園内の安全柵設置などが完了。

本年度は、浜口邸の改修、牧野生家の再生、牧野公園の遊歩道整備などを計画している。

来年度は、名教館玄関施設の移築を計画。ハード事業は、国や県の補助を活用して順次取り組んでいる。

榎並谷町長 客車の設置は国・県の補助対象にはなっていないが、旧青山文庫に付随するものであり、一対のものとの認識があり、復元を希望している。ただ、庁内でも議論があり、26年度以降、慎重に進めたい。



客車設置予定地（佐川文庫庫舎横）

霧生関公園

「斟酌」どう捉えているか

町長 文書化、間違いであった

議案説明会の折、霧生関公園の整備が難航している説明を受け、19年度に覚書が交わされている内容が明らかになった。

覚書には、「斟酌」という言葉が使われているが、どう捉えているか。

起案者は誰で、決裁はどのようになされたのか。その責任は誰が取るのか。

また、公園の事業を進めていくには、隣地の承

諾や火薬庫移転問題等があるとされるが、将来の構想はどのように持っているのか。今までに費やした金額は、どのくらいか。

榎並谷町長「斟酌」という言葉を行政が文書化するということは、非常に間違いであった。大変皆さんに迷惑をかけているが、一応白紙という内諾を得ている。

私自身が地権者と話し合いをし、総務課に起案の指示をした。責任は私にある。

平成10年より、サッカー場建設の残土処理場として用地取得した経過もあり、初期の目的の運動公園として整備をしていきたい。

年度内には、将来に向けて方向づけをして、町民に知らせたい。

岡林総務課長 決裁については、その当時、課長補佐だった「斟酌」については覚えていない。

今まで費やした費用は、19年度から23年度までで3億1000万円余りとなっている。

※斟酌・・・相手の心情をくみ取り、手加減すること。

その他の質問

○ いじめ問題についての佐川町の実情と今後の対応策の取り組みは。



完成はいつになる...



中村 卓司 議員

町長は日頃から、文化、文教の町を町内外に発信すると言っている。具体的な策を講じるべきだ。そこで、子どもたちや町民に、町の偉人・史跡などの財産を知ってもらうため、町の偉人・史跡かるたを作ってはどうか。

文教の町

偉人・史跡かるたを作ってはどうか

町長 積極的に進めたい



知ってもらいたい、佐川の偉人と歴史

川井教育長 現在、佐川町歴史的風致維持向上計画の中で、佐川の偉人、歴史などの紹介や、郷土を学ぶ講演会の開催などが、計画に位置付けられており、指摘のかるたを含め、推進方策について検討していきたい。

榎並谷町長 世界で活躍した人物が佐川町から出ているということを、子どもたちにぜひ、教えたい。その意味からも、かるたについても積極的に進めていきたい。

佐川高校・野球部復活

どう協力できるか

町長 土壌づくりを始めるしかない

佐川高校に野球部が復活するためには、野球の用具やネット、大変な経費が必要となってくる。グラウンドも心配されている。

経済面、ソフト面、ハード面など、どういった協力ができるか。

榎並谷町長 野球部復活は、それを望む有志の皆さんが運動を展開している。まずは、その有志の方々から道具等の準備をしていただき、土壌づくりを始めるしかないと感じている。

なにがしかの支援をしていきたいと考えている。

道の駅

最終的方向性は

町長 年度内の早い時期に結論

6月定例会で、町長は、工科大学からの提案を受け、道の駅開設の判断を、できるだけ年内に、この発言があった。最終的にどのような方向性を持っているのか。

榎並谷町長 工科大学の報告書では、道の駅立地は可能であるとの報告があった。ただ、どのくらいの費用がかかり、補助金はどれくらいで、町の

負担はどれくらい要するのか、また、経営主体がどこなのかをきつちりしないと、結論が出にくい。年度内のできるだけ早い時期に結論を出したい。



野球部復活なるか

太陽光発電システム設置事業

補正予算組めないか

産業建設課長 予定していない

坂本 貞雄 議員



住宅用太陽光発電システム設置費補助事業の本年度の実績はどうなっているか。また、町の補助対象にならなかった申請者について、本年度で補正予算を組み補助することはできないか。



普及進む太陽光発電システム

渡辺産業建設課長 本年度実績は、申請44件のうち26件が補助対象となった。補助対象外の18件は、国の補助を受けてすでに工事を実施している。当初から、予算の範囲内というところで取り扱っており、本年度の補正は予定していない。

耐震対策

橋の耐震化 どこまで進んでいるか

産業建設課長 調査、25年度完了予定

県は、町道の橋の耐震化は、管理者である町の計画づくりが必要であり、

速やかな策定を指導している、と聞く。
この計画づくりはどこまで進んでいるか。また、橋の数はどれくらいか。
渡辺産業建設課長 橋の耐震化は、最初に役場前の佐川橋を予定している。現在、町内358の橋の長寿命化計画を策定するための調査を実施しており、25年度完了予定である。その後、緊急輸送道路路上にある橋について、耐震化計画を立て、事業を実施する。

高北病院・分娩

できないネックは何か

病院事務局長 医師一人でサポート体制ない

現在、高北病院では分娩ができない。ネックは何か。地域および他病院との連携で分娩できるようにならないか。
また、消費税が8%、10%と上がることが決定したが、病院では、どれだけの負担増となるか。

笹岡病院事務局長 産婦人科医師一人体制であり、サポートする体制が整備できていない。国立病院をはじめ地域の産院との連携を通じて相互応援の体制ができないか、可能性について今後検討していく。
消費税は医療機械器具、薬品等に課税される。8%で1250万円、10%で2100万円の負担増が見込まれ、病院経営上相当の痛手となると思われる。



分娩ができるように望まれている高北病院



松本 正人 議員

霧生関公園建設地における「土地埋立工事に関する覚書」なるものが、議会への説明会で初めて公開された。

「覚書」の第4条に「売買価格を斟酌し、協議の上、面積配分について決定する」とあるが、これ

霧生関公園

無理に実施する事業か

町長 初期の目的に仕上げる

は交換の約束を示唆したものと推測する。町有地が約1880平方メートルで私有地は約350平方メートルである。この町有地は土地収用法の認可申請をした土地であり、法律上、売買や交換はできない。また、普通財産であったとしても、交換は条例違反となる。

町長は、責任を取ると

言ったが、このような無理をしてまで実施しなければならぬ事業か。



紆余曲折する霧生関公園

榎並谷町長 交換予定地については指摘のとおりだ。法律違反はあとで気がついた。反省している。地主と誠心誠意話をし、解決を図って、初期の目的の運動公園に仕上げていくのが責任だ。

学校・警察連絡制度

進め方に問題がある

教育長 締結するのは妥当

6月24日、教育委員会は小・中学校のPTA役員対象に「学校・警察連絡制度」の説明会を行った。そして、7月12日に佐川警察署と教育委員会との間で「協定」が結ばれた。

警察と学校との連絡制度については、昨年、本県で提案されたが、個人情報保護の問題で問題点が指摘され、いったん提出を見送り、ガイドラインを作成した上で再提出されたが、それでも保護者等と十分協議をして理解した上で進めるべきとの指摘がされている。

今回の説明会では初めてから協定を結ぶことが前提となっていたと聞くが、進め方に問題がある。川井教育長 説明会は、制度を皆さんに周知するために行った。今回の学校・警察連絡制度については、以前の制度が県下統一に行われており、また、28市町村が県と同一の内容で協定書を締結しており、両方を考慮し、締結するのが妥当と判断した。



警察と交わされた協定書

委員会レポート

総務文教常任委員会

9月12日

尾川小中一貫校の現状と耐震化工事調査

委員長 藤原 健祐



整備進む尾川小中耐震化工事

一貫教育校は基礎学力の定着、学力・体力の向上を目指す

川井教育長ほか2名の職員に出席を求め、尾川小中一貫校の現状と耐震化工事の調査を実施した。

一貫教育校は保護者や地域の方々との協議を踏まえ、本年度からスタートし9力年間で基礎学力の定着、学力及び体力の向上を目指して取り組まれている。

小中合同職員会、校内研修会などを通じ情報の共有化を図りながら、中

学教員の専門性を生かし、小学5・6年生を対象に英語、算数、音楽の授業を行なっている。

耐震化・大規模

改造工事進む

施設面では、教室棟、技術棟、屋内体育館の耐震化工事及び大規模改造工事が行われている。

体育館便所を

水洗化

前回の学校訪問で要望のあった、体育館便所の水洗化、多目的便所の増設などが実施されていた。

産業厚生常任委員会

9月12日

就農者支援事業調査

委員長 岡村 統正



農業振興を議論

新規就農者2年間で6名が就農

渡辺産業建設課長ほか2名の職員に出席を求め、就農者支援事業について、調査を行った。

新規就農研修支援事業は、平成21年度から県単独事業として事業化され、新規就農研修生に月額15万円、指導農業主に月額5万円を支給する制度で、22年度2名、23年度4名になっている。

経営開始型と準備型の2種類がある

人・農地プラン事業は人・農地プランを作成することによって国から、青年就農給付金（経営開始型）を受けられる制度で年間150万円を5年間受けるものと、人・農地プランに位置づけられることなく青年就農給付金（準備型）年間150万円を最長2年間受けられるものとの2種類がある。

新規就農支援委託事業はソエルに委託

新規就農支援委託事業は、有機農業研修組織「ソエル」に新規就農研修生の受け入れを委託し、指導農業主に有機栽培技術、販売、経営の研修を行っている。現在2名となっており、有機農業の推進につながっているとのことだ。

本年度3年経過することから、事業の再評価を行うことが考えられる。

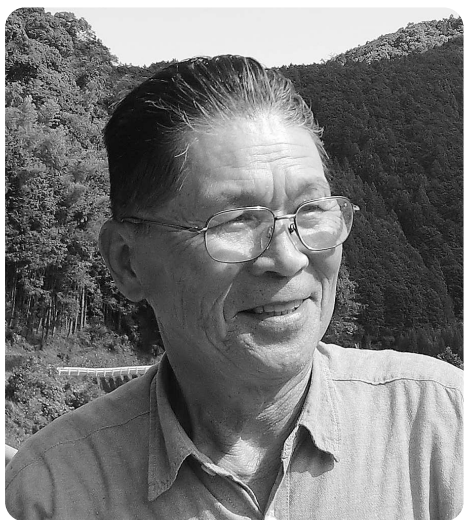
わがまち

人

伝統の尾川踊 唄の継承者

わがまち「人」では、この佐川のまちで元気に活躍されている方にスポットをあて紹介します。

今回は、「尾川踊」の唄を、ただ一人受け継いでいる岡村保男さんにお話を伺いました。



岡村 保男 さん

「尾川踊の唄を覚えたのはいつですか。」

中学校のころに、近くの観音様の境内でおやじがうたい、皆が練習をしていたので、聞き覚えでうたっていました。本番でのうたい初めは40歳ごろでした。黒潮博でも先輩二人とうたいましたよ。これが一番の思い出かな。

「『尾川踊』は盆踊りですか。」

いいえ、これは豊年踊りで、稲の収穫が済んだ10月から11月に開かれていました。

「以前は随分盛んだったと聞いていますが。」

学校の校庭でも二重にも三重にもなつて、老若男女が大勢踊りました。近隣の村からも踊りに来ましたが、私たちが行きました。

「太鼓も打っているようです。」

太鼓打ちがいなくなつて、旧吾川村の打ち方を習い、打っています。

「後継者は育っていますか。」

何人かが練習をしていますが、まだ本番でうたえるようにはなっていない。



継承される尾川踊

「早く育ってもらいたいですね。」

若い人たちが今、尾川踊を復活して「尾川秋祭り」で踊ってくれています。その中で唄と太鼓を練習してくれています。DVDでも残していますが、早く受け継いでもらえたらと思っています。

「最後にこれからの抱負をお聞かせ下さい。」

伝統のある「尾川踊」を、いつまでも受け継いでもらえたら、うれしいですね。

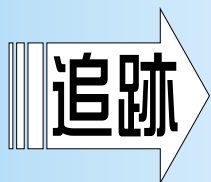


祭りに踊りの唄が響く

ありがとうございます。まだまだ若い岡村さん。これからも、うたい続けて、後継者にバトンを渡していただきたいと思っています。

お元気で頑張ってください。ご活躍を期待しています。

あなたの周りに、人知れず「佐川のまち」の元氣のために活躍されている「人」をぜひ、ご紹介下さい。
ご連絡は議会事務局まで。



あれはどうなったが？



災害に備え、真剣に行われた防災訓練

情報伝達網の整備必要

(平成23年12月定例会)

災害が起こったとき、最初に一番必要なものは情報だ。正確な情報をより早く収集して、的確に行動する必要がある。

実際に役立つ情報網の整備を行い、情報の収集と伝達の訓練をすべきだ。

(森正彦議員)

総務課長
答 弁

情報伝達訓練を実施

24年9月23日に、「地域みんなで自主防災訓練」が斗賀野地区を中心に行われた。その訓練の中で、8時30分の防災無線を合図に、安否確認と情報伝達の訓練が行われた。今後、さらなる取り組みが求められる。

どう
なった

情報把握は非常に重要

災害時の初動における情報把握が非常に重要であり、被災状況の人的、物的な状況の把握が非常に大事だ。

行政だけではなく自主防災組織とか消防団の意見も聞いて訓練等も含め検討したい。

あの質問のゆくえ

No.23

あなたが選んだ議員の
仕事ぶりを見にきませんか？

次の定例会は12月7日午前9時開会
予定です。傍聴においでください。

議会広報編集委員会

※わかりやすい紙面にと心がけています。
読後のご感想、ご意見をお寄せください。

委員長	岡村 統正
副委員長	坂本 貞雄
委員	松浦 隆起
委員	片岡 勝一
委員	森 正彦

6月定例会より本格的に始まった議会活性化の取り組み。11月には、初めての議会懇談会も予定されている。しかし、議会活性化のその一歩は、実に約13年前に踏み出されている。平成11年11月20日、佐川町議会広報が創刊され、そして、議会の模様を伝える庁内全館放送が始まったのもこのころである。議会の取り組みを一人でも多くの町民の方に、知らせようとの取り組みも議会活性化の一つといえる。

「さくら通信」から「さかわ議会だより」に名称を変えて、議会の取り組みをより伝えるよう、さまざまな工夫や努力を重ねて、今号で22号目になる。先日、町民の方から、質問する議員が少なすぎるとのお叱りを受けた。質問議員が増えることによって、議会だよりの紙面もさらに充実することができると。こういったことも大事な議会活性化の取り組みといえる。

松浦

編集
後記